
平成 30 年度

修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組
についてのアンケート

< 関修委研究委員会報告 >

関東地区公立中学校修学旅行委員会 研究委員会
(事務局 : 公益財団法人 全国修学旅行研究協会)

平成30年度

修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について 調査集計結果の分析と考察 ～感性をはぐくむ修学旅行～

I 調査研究のねらい

昭和22年に発表されて以来、8回目の改訂となる新学習指導要領では、改訂のポイントとして、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という、学校教育の方向性について三つの視点が明確に示された。

修学旅行については、「特別活動」において文言が若干加筆された以外は大きな変化はなかったが、「どのように学ぶか」に係わり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの学習過程の改善が求められていることを考えると、その教育的価値と重要性、可能性は、今後、益々高まっていくと考えられる。言うまでもなく修学旅行は所謂、「主体的・対話的で深い学び」そのものであることを改めて感じる今、その教育性の質的な改善を行っていくことは、生徒たちに、様々な現代的な課題に対応する資質や能力等を育成する上でも、重要な行事、活動であることは間違いない。

本委員会は昭和38年に発足し、学習指導要領の趣旨を具現化するため、関東5県（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉）校長会と連携し、修学旅行の「安全性の確保」、「教育性の充実」、「経済性の適正化」を基本的な柱として、修学旅行の在り方、条件整備等について研究を進めてきた。

また、平成29年度までに、関東5県で7,529,388人の修学旅行生を運ぶ、連合体輸送を行ってきた。そして、修学旅行の更なる充実・発展を図るため、調査研究活動に毎年、取り組んでいる。

研究テーマは、その時代の教育課題であったり、社会の教育的要請であったり、様々である。体験学習や事前・事後学習、危機管理と安全対策、感染症や食物アレルギー対策、航空機利用や新線ルートの活用など、これまで多くのテーマについて、各学校における取組や課題、将来的な展望等について、実態調査を行ってきた。

今年度は、昨年につき、実施方面の検討・変更について、決定の際のきっかけや予定等についてアンケートを行った。また、『感性をはぐくむ修学旅行』をテーマにした、「学びの集大成を図る修学旅行」の取組については、近年発生している災害や事故等に鑑みて、「修学旅行中の安全対策」について

- (1) 修学旅行中の危機管理マニュアルについて
- (2) 修学旅行に想定している災害や場面等について
- (3) 修学旅行中の安全対策指導・徹底の方法等について
- (4) 災害発生時の保護者等への連絡について

上記の4つを柱に調査研究を進めてきた。

本研究委員会では、修学旅行の「安全性の確保」、「教育性の充実」、「経済性の適正化」を追究しながら、より良い形での修学旅行の実現を目指し調査研究活動を行ってきた。特に、昨今の自然災害や事故等については、これまでの想定を超えた状況も見られる。その中で、「安全性の確保」は絶対条件である。修学旅行の重要性と可能性を常に広く展望しながら調査研究を進めていきたい。

II 平成30年度修学旅行の実施状況並びに 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組についてのアンケート調査

<調査について>

- ・ 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
- ・ 調査の時期 平成30年7月
- ・ 調査内容
 1. 平成30年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数
 2. 実施方面の検討・変更について
 3. 「修学旅行中の安全対策」について
 4. 本年度の修学旅行について(自由記述)

・回答状況

	校					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	219	153	163	412	378	1,325
回答数	219	153	163	412	378	1,325
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

過去回答率

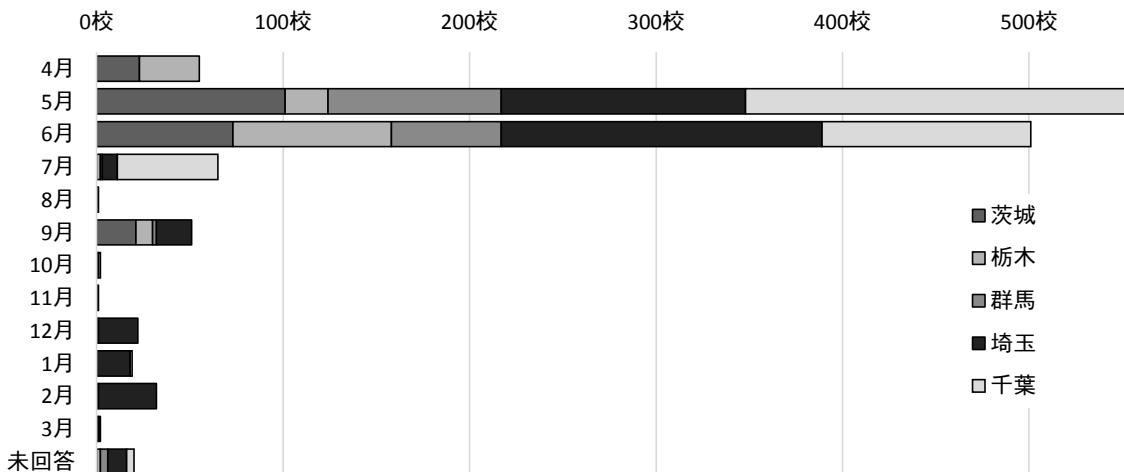
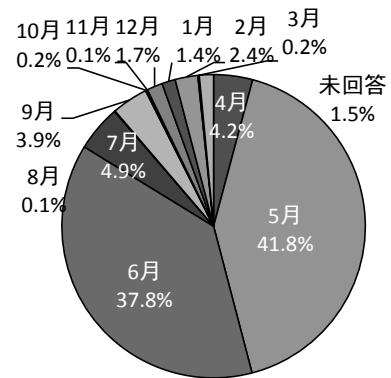
25年	26年	27年	28年	29年
1,361	1,362	1,345	1,339	1,324
1,244	1,222	1,266	1,333	1,324
91.4%	89.7%	94.1%	99.6%	100.0%

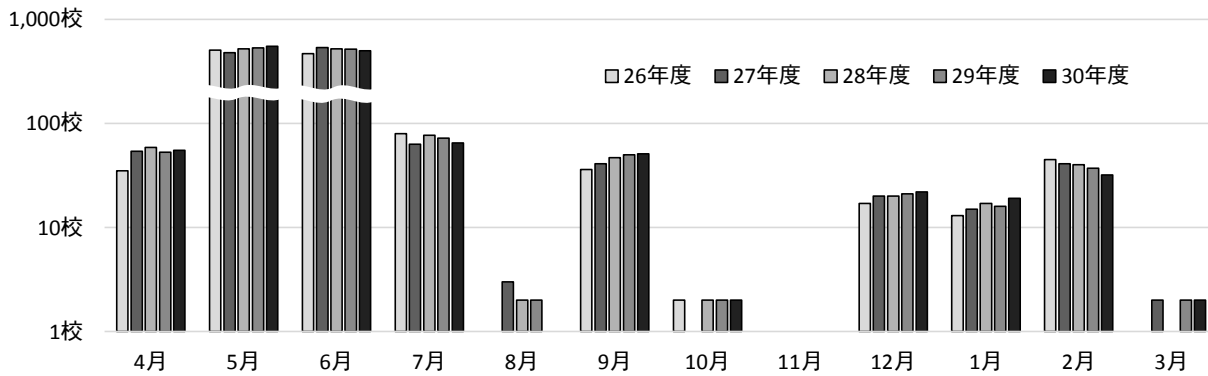
※特別支援学校含む

1 平成30年度修学旅行実施の状況

(1) 実施時期

	校						割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	
4月	23	32				55	4.2%
5月	101	23	93	131	205	553	41.8%
6月	73	85	59	172	112	501	37.8%
7月		2	1	8	54	65	4.9%
8月			1			1	0.1%
9月	21	9	2	19		51	3.9%
10月			1		1	2	0.2%
11月				1		1	0.1%
12月			1	21		22	1.7%
1月				18	1	19	1.4%
2月	1			31		32	2.4%
3月			1	1		2	0.2%
未回答		2	4	10	4	20	1.5%



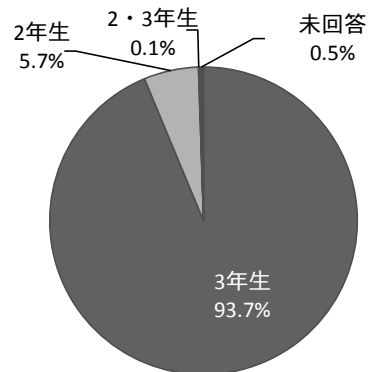


実施時期、日数等の状況

- ・実施時期は5～6月がもっとも多く、79.7% (約8割)の学校が実施している。
- ・関修委の集約列車を利用せず4月実施の学校が55校あり、昨年に比べ2校増加している。
- ・9月実施校は年々増加傾向にあるが、その傾向は今年も続いている。
(24年) (25年) (26年) (27年) (28年) (29年) (30年)
31校 ⇒ 31校 ⇒ 36校 ⇒ 41校 ⇒ 47校 ⇒ 50校 ⇒ 51校
- ・1月～3月の冬季に実施している学校はほぼ横ばいであるが、今年若干減少した。
(24年) (25年) (26年) (27年) (28年) (29年) (30年)
62校 ⇒ 58校 ⇒ 59校 ⇒ 58校 ⇒ 58校 ⇒ 55校 ⇒ 53校

(2) 実施学年

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3年生	218	152	161	335	375	1,241	93.8%
2年生	1			74	1	76	5.7%
2・3年生			1			1	0.1%
未回答		1	1	3	1	6	0.5%



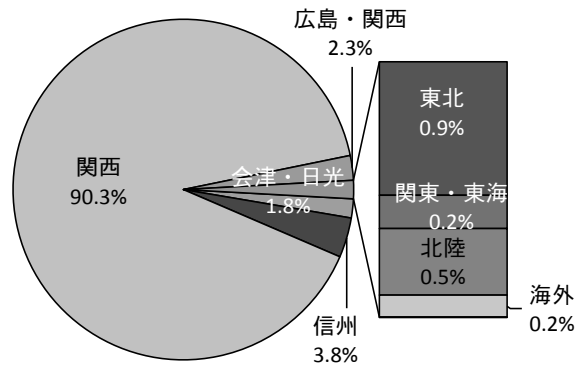
(3) 実施日数

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3日間	219	152	160	401	375	1,307	98.7%
4日間					1	1	0.1%
5日間以上			2			2	0.2%
未回答		1	1	11	1	14	1.1%

- ・実施日数は3日間が圧倒的に多く、98.7%となっている。
- ・群馬県の5日間以上は夏季休業中の海外ホームステイ実施校である。

(4) 実施方面

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
東北					12	12	0.9%
会津・日光					24	24	1.8%
関東・東海					1	1	0.1%
信州					50	50	3.8%
北陸					6	6	0.5%
関西	206	150	155	409	278	1,198	90.5%
広島・関西	13	3	6	3	6	31	2.3%
海外			2			2	0.2%
未回答						0	0.0%



実施方面

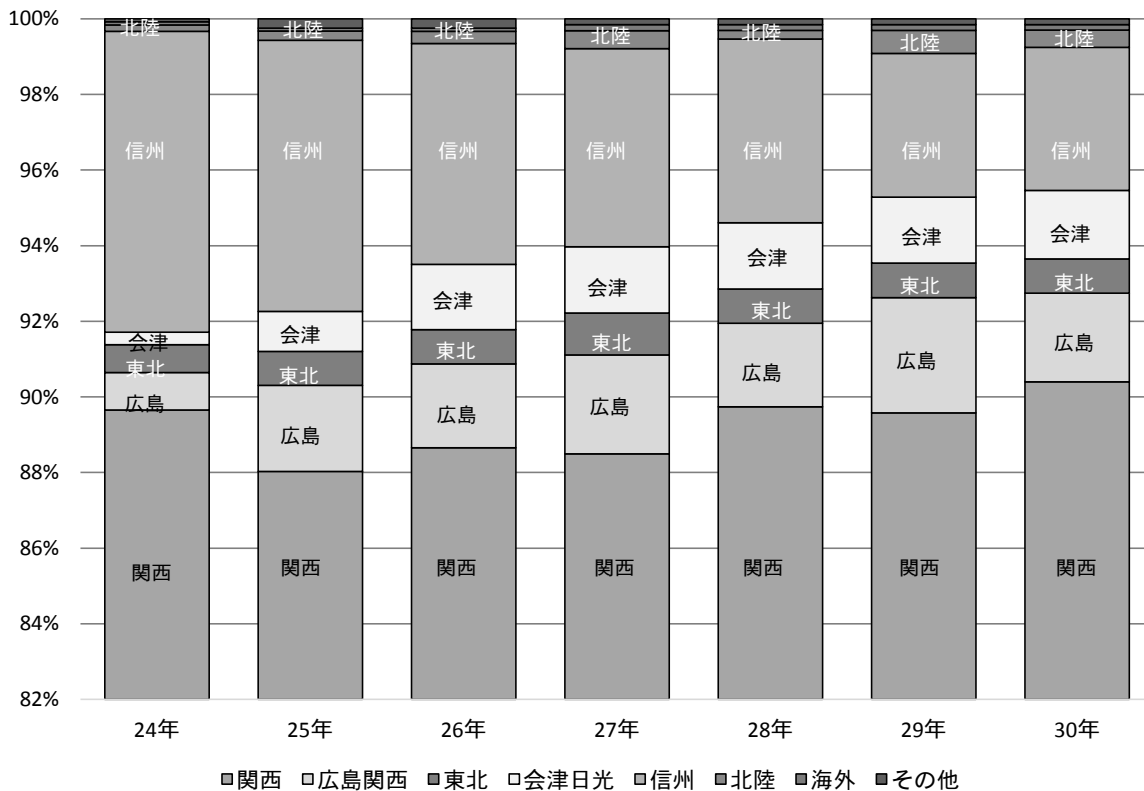
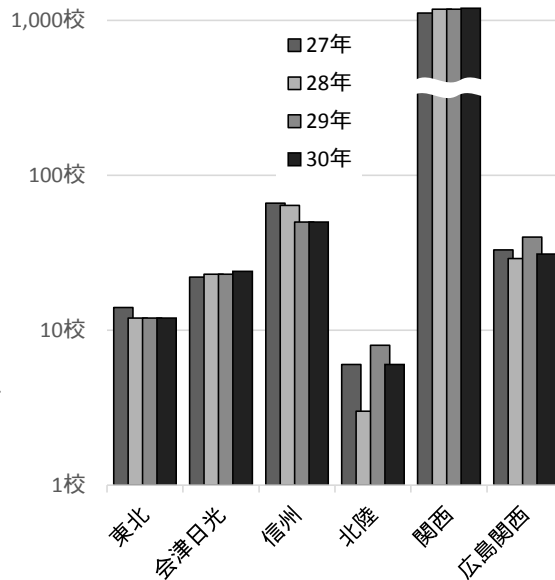
・関西方面への人気は高く、昨年に比べて20校増えている。また、広島・関西方面については9校減少した。

・東日本大震災後、激減した東北方面は年々増加してきたが、ここ2、3年は現状維持の状態が続いている。

・北陸新幹線の開業にともない、信州方面がやや減少傾向にある。

・東北、会津・日光、信州方面

	22年	23年	24年	28年	29年	30年
東北)	21校	6校	9校	12校	12校	12校
会津・日光)	43校	2校	4校	23校	23校	24校
信州)	60校	107校	97校	64校	50校	50校



(5)-1 宿泊地(県) 一泊目

30年	29年						校
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	
青森県					4	4	
岩手県					3	3	
宮城県					3	3	
山形県					1	1	
福島県					23	23	
栃木県					0	0	
群馬県					1	1	
神奈川県					1	1	
新潟県					3	3	
長野県					47	47	
石川県					4	4	
岐阜県					4	4	
滋賀県	5	3	3	5	13	29	5 3 1 5 11 25
奈良県	9	10	5	24	11	59	11 8 17 11 47
京都府	201	134	149	380	249	1,113	200 140 152 388 246 1,126
大阪府		5	1	1	8	15	7 7
兵庫県					1	1	1 1
広島県	4		3	2	2	11	3 1 4 2 5 15
海外			2			2	2 2
未回答		1				1	2 1 2 5
合計(延校数)	219	153	163	412	378	1,325	219 154 160 412 379 1,324

(5)-2 宿泊地(県) 二泊目

30年	29年						校
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	
青森県					4	4	
岩手県					4	4	
宮城県					2	2	
山形県					1	1	
福島県					23	23	
群馬県					1	1	
栃木県					0	0	
神奈川県					1	1	
新潟県					3	3	
長野県					50	50	
富山県					0	0	
石川県					4	4	
滋賀県	4	3	5	5	14	31	5 2 1 5 12 25
奈良県	3	2		11	3	19	9 5 11 1 26
京都府	212	146	156	396	259	1,169	205 144 156 394 262 1,161
大阪府					6	6	1 1 5 7
兵庫県					1	1	1 1 2
広島県					1	1	0
海外			2			2	2 2
未回答		2			1	3	2 1 2 5
合計(延校数)	219	153	163	412	378	1,325	219 154 160 412 379 1,324

宿泊地

・関西方面の宿泊地については、京都の人気は根強く、その傾向は続いている。一方で、滋賀県や奈良県での宿泊も増加傾向にある。

・東北方面では県によって微増、微減、現状維持のところに分かれるが、大きな変化にはなっていない。

(5)-3 連泊状況

校

一泊目	二泊目										
	青森	岩手	山形	宮城	福島	群馬	神奈川	新潟	長野	石川	合計
青森県	4										4
岩手県		2		1							3
宮城県		2		1							3
山形県			1								1
福島県					23						23
群馬県						1					1
神奈川県							1				1
新潟県								3			3
長野県									46		46
石川県										4	4
岐阜県									4		4
合計	4	4	1	2	23	1	1	3	50	4	93

校

一泊目	二泊目							
	滋賀	奈良	京都	大阪	兵庫	広島	海外	合計
滋賀県	27	1	1					29
奈良県		3	56					59
京都府	3	15	1,092	1	1			1,112
大阪府	1		9	5				15
兵庫県			1					1
広島県			10			1		11
海外							2	2
合計	31	19	1,169	6	1	1	2	1,229

(5)-4 宿泊県別生徒数

一泊目

二泊目

人

	一泊目						二泊目					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
青森県					827	827					827	827
岩手県					617	617					617	617
宮城県					232	232					232	232
山形県					305	305					305	305
福島県					2,468	2,468					2,468	2,468
群馬県					38	38					38	38
新潟県					425	425					425	425
長野県					7,178	7,178					7,178	7,178
石川県					843	843					843	843
岐阜県					637	637					637	637
滋賀県	509	289	523	483	1,955	3,759	448	289	701	471	2,204	4,113
奈良県	1,025	1,103	248	3,092	1,769	7,237	294	138		1,594	323	2,349
京都府	22,848	14,837	16,245	51,623	31,972	137,525	24,257	16,338	16,533	53,328	33,252	143,708
大阪府		584	4	162	444	1,194					474	474
兵庫県					67	67					114	114
広島県	617		214	33	208	1,072					48	48
合計(延人数)	24,999	16,813	17,234	55,393	49,985	164,424	24,999	16,765	17,234	55,393	49,882	164,273

※海外修学旅行実施校、特別支援学校除く

(5)-5 宿の種類

校

1泊目	一泊目						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計		
旅館	130	91	86	298	188	793	60.0%	
ホテル	86	59	72	104	163	484	36.6%	
民宿・ペンション	1	2		1	16	20	1.5%	
民泊					6	6	0.5%	
公共施設	2			2		4	0.3%	
その他				1	2	3	0.2%	
2泊目	二泊目						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計		
旅館	136	98	81	297	181	793	60.0%	
ホテル	80	53	78	105	121	437	33.1%	
民宿・ペンション	1	2		1	38	42	3.2%	
民泊					32	32	2.4%	
公共施設	2			2	1	5	0.4%	
その他				1	2	3	0.2%	

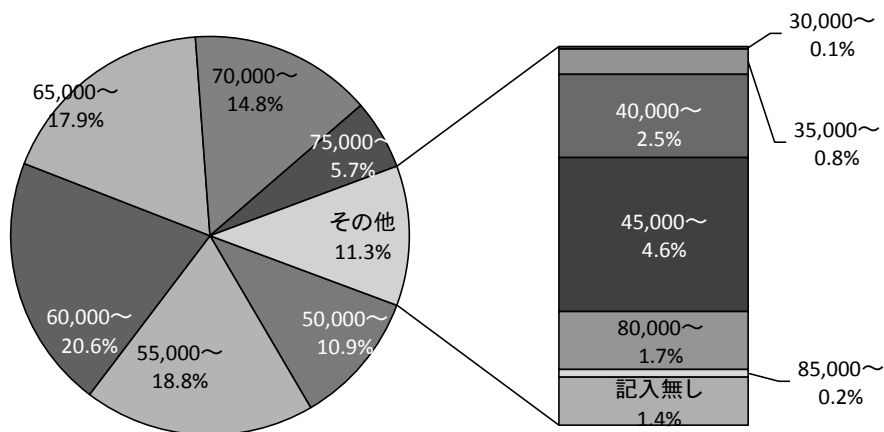
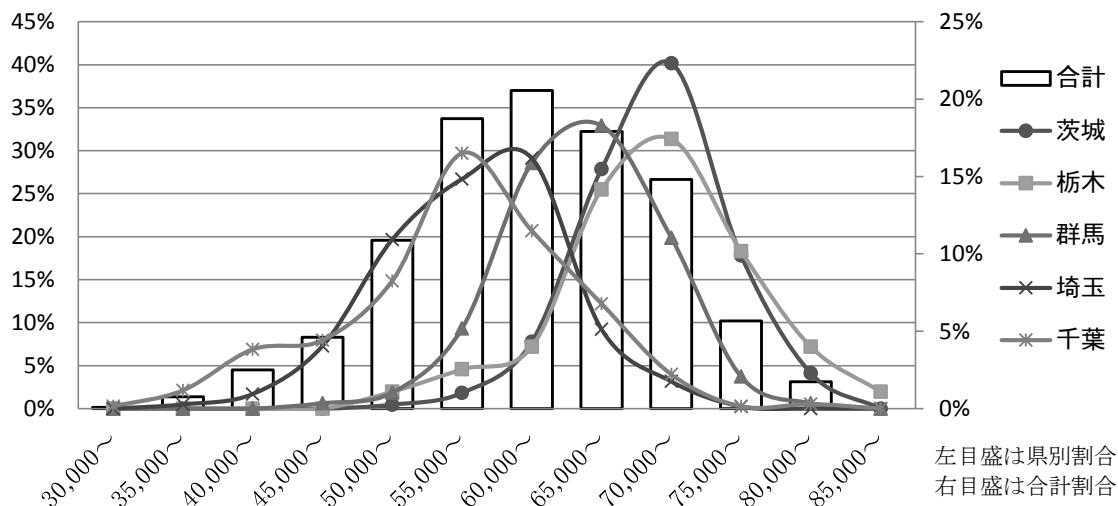
(6) 県別旅行費用(生徒一人当たり平均額) 校

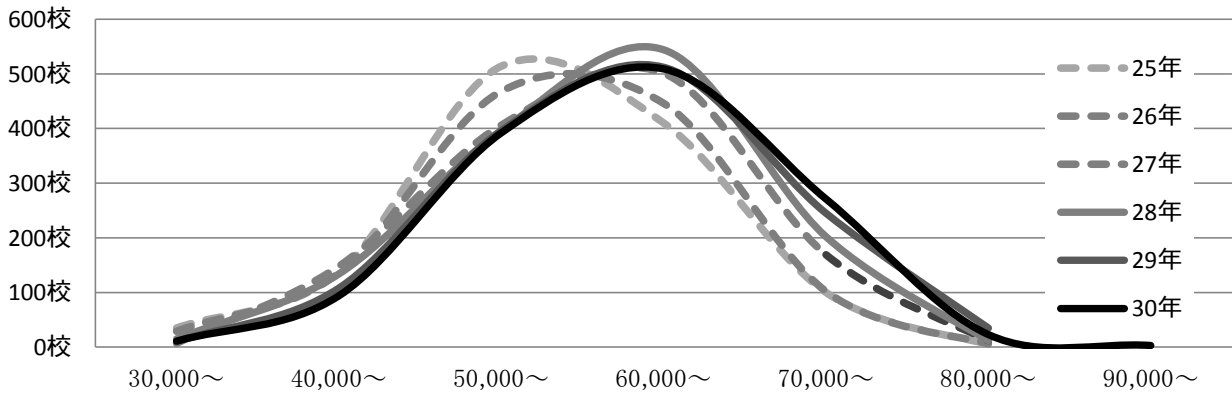
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
30,000～					1	1	0.1%
35,000～				2	8	10	0.8%
40,000～				7	26	33	2.5%
45,000～			1	30	30	61	4.6%
50,000～	1	3	3	81	56	144	10.9%
55,000～	4	7	15	110	112	248	18.8%
60,000～	17	11	46	120	78	272	20.6%
65,000～	61	39	53	38	46	237	17.9%
70,000～	88	48	32	13	15	196	14.8%
75,000～	39	28	6	1	1	75	5.7%
80,000～	9	11	1		2	23	1.7%
85,000～		3				3	0.2%
未回答		3	4	10	2	19	1.4%
合計	219	153	161	412	377	1,322	100.0%

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く

県別旅行費用

- ・1人当たりの平均費用は55,000～75,000円未満に多く分布するが、各県によって、その分布状況は大きく異なる。
- ・県別に見ると、茨城県と栃木県は65,000～75,000円未満に最大分布があるが、群馬県は60,000円～70,000円未満、埼玉県と千葉県は55,000～65,000円未満に分布が来ている。
- ・千葉県は方面が多岐にわたるため、また費用も広く分布している。

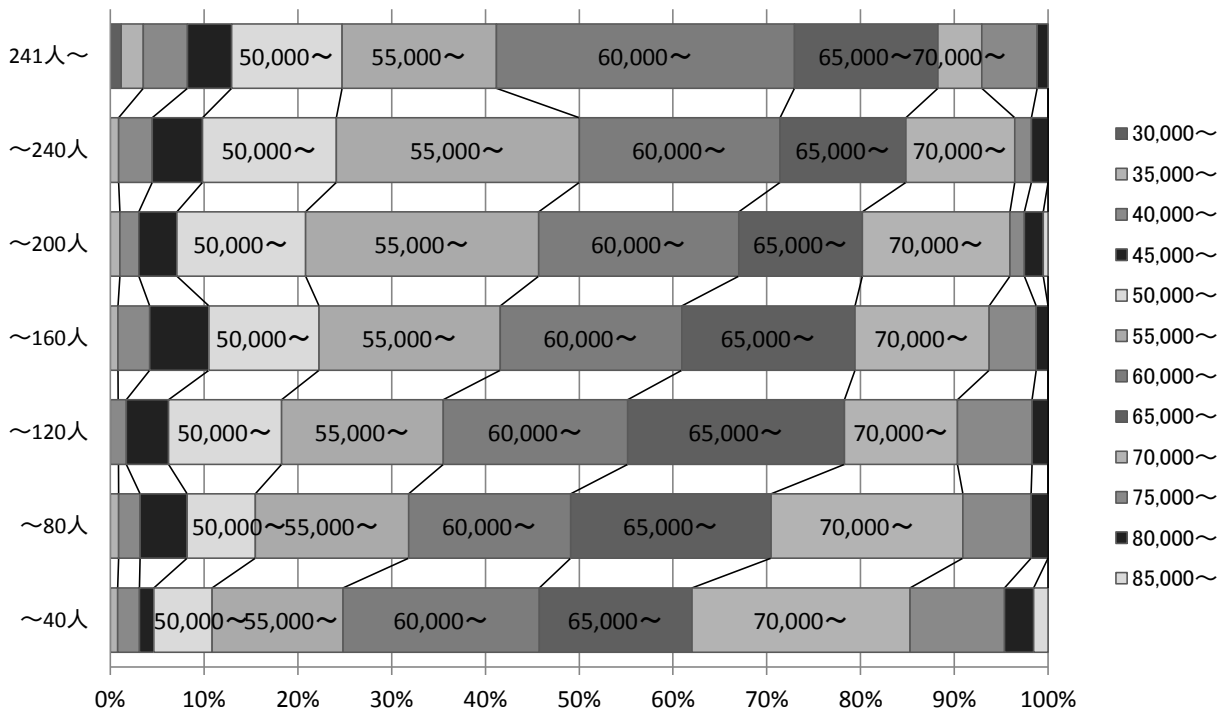




(7) 生徒数別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	校									
	~40人	~80人	~120人	~160人	~200人	~240人	~280人	~320人	321人~	未回答
30,000~							1			
35,000~	1	2		2	2	1	1	1		
40,000~	3	5	5	8	4	4	1	3		
45,000~	2	11	13	15	8	6	2	2		2
50,000~	8	16	35	28	27	16	4	5	1	4
55,000~	18	36	50	46	49	29	7	3	4	6
60,000~	27	38	57	46	42	24	18	8	1	11
65,000~	21	47	67	44	26	15	8	5		4
70,000~	30	45	35	34	31	13	2	2		4
75,000~	13	16	23	12	3	2	3		2	1
80,000~	4	4	5	3	4	2	1			
85,000~	2				1					
未回答	2	4	5	5			1			2
合計	131	224	295	243	197	112	49	29	8	34

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く



生徒数別旅行費用

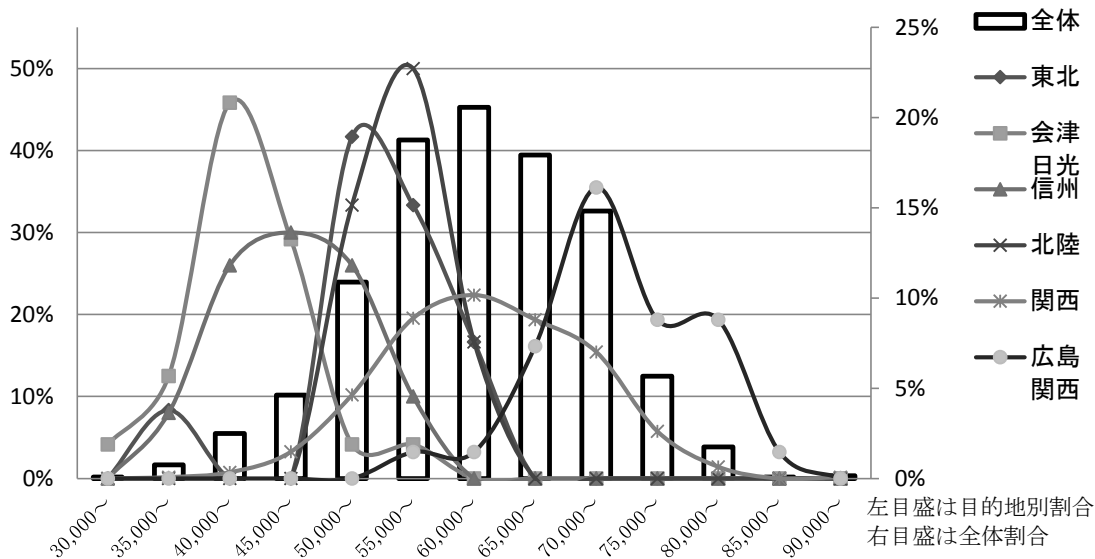
・宿泊料や見学料などのように一人あたりの経費とは別に、バス代など参加者全員で負担するものについては、小規模校における一人の負担金額はどうしても重くなり、旅行費用全体も高額となる。

(8) 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津 日光	関東	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	未回 答	合計
30,000～		1								1
35,000～	1	3		4		2				10
40,000～		11		13		9				33
45,000～		7		15		39				61
50,000～	5	1	1	13	2	122				144
55,000～	4	1		5	3	234	1			248
60,000～	2				1	268	1			272
65,000～						232	5			237
70,000～						185	11			196
75,000～						69	6			75
80,000～						17	6			23
85,000～							1			1
90,000～						2				2
未回答						19				19
合計	12	24	1	50	6	1,198	31	0	0	1,322

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く



(9) 県別体験活動費用(生徒一人当たり平均額) 校

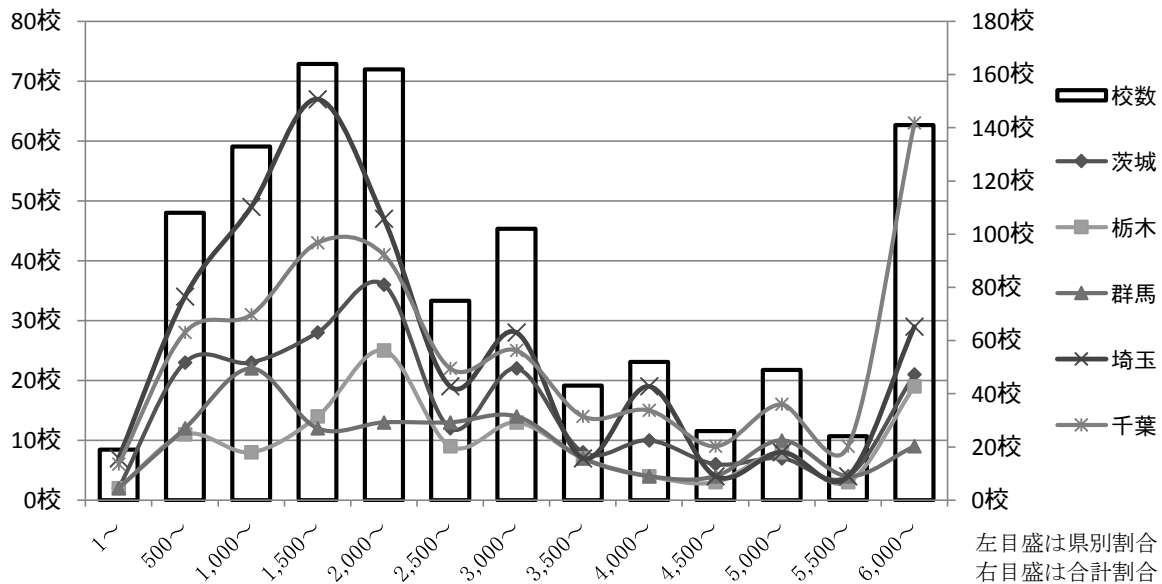
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
1～	2	2	2	7	6	19	1.4%
500～	23	11	12	34	28	108	8.2%
1,000～	23	8	22	49	31	133	10.1%
1,500～	28	14	12	67	43	164	12.4%
2,000～	36	25	13	47	41	162	12.3%
2,500～	12	9	13	19	22	75	5.7%
3,000～	22	13	14	28	25	102	7.7%
3,500～	8	7	7	7	14	43	3.3%
4,000～	10	4	4	19	15	52	3.9%
4,500～	6	3	4	4	9	26	2.0%
5,000～	7	8	10	8	16	49	3.7%
5,500～	4	3	4	4	9	24	1.8%
6,000～	21	19	9	29	63	141	10.7%
0または未回答	17	27	35	90	55	224	16.9%
合計	219	153	161	412	377	1,322	100.0%

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く

体験活動費用

・生徒一人当たりの体験活動費用は1,000～2,500円未満の範囲が最も多くなっている。それでも突出した数字ではなく、全体の34.8%でむしろ、まんべんなく分布しているといった方が正確である。

・体験活動費用に5,000円以上かけている学校の割合が、昨年は14.8%、今年は16.2%と若干ではあるが増加傾向にある。

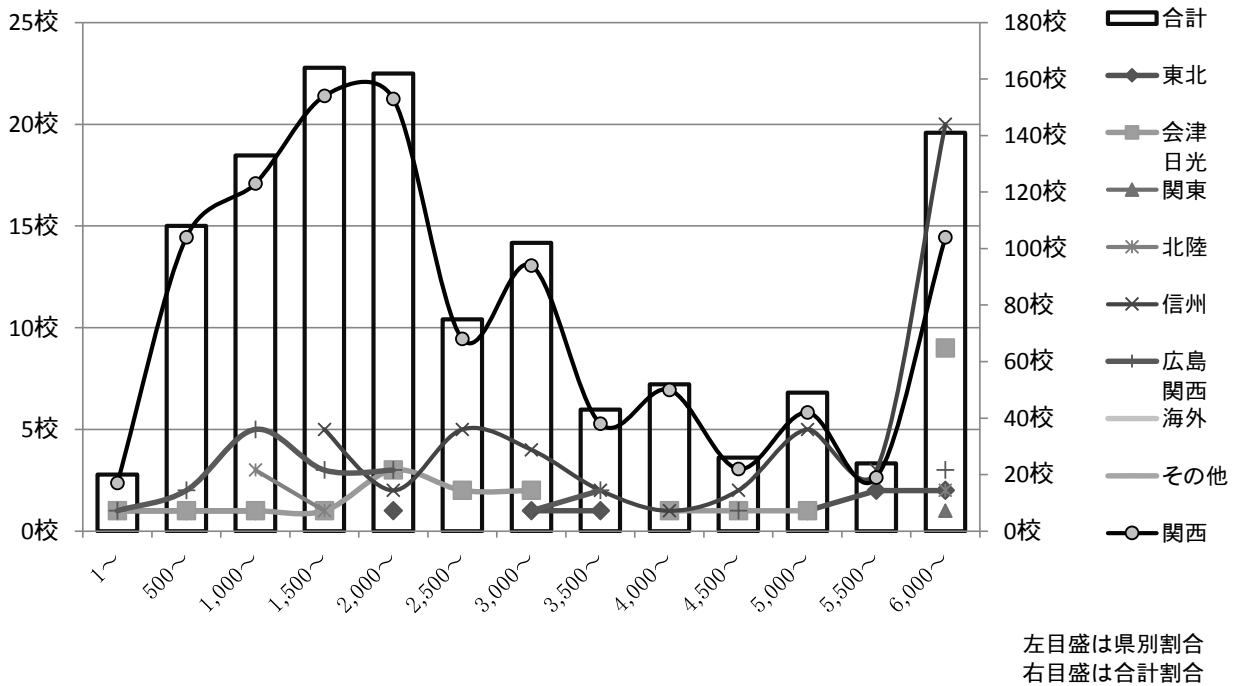


(10) 方面別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津 日光	関東	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	未回答	合計
1～	1	1				17	1				20
500～	1	1				104	2				108
1,000～	1	1			3	123	5				133
1,500～		1		5	1	154	3				164
2,000～	1	3		2		153	3				162
2,500～		2		5		68					75
3,000～	1	2		4		94	1				102
3,500～	1			2		38	2				43
4,000～		1		1		50					52
4,500～		1		2		22	1				26
5,000～	1	1		5		42					49
5,500～	2			3		19					24
6,000～	2	9	1	20	2	104	3				141
未回答	1	1		1		210	10				223
合計	12	24	1	50	6	1,198	31	0	0	0	1,322

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く



(11) 方面別旅行費用平均(生徒一人当たり平均額) 円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					54,919	54,919	61,661	37,032
会津・日光					43,416	50,585	55,000	32,394
信州					47,088	47,088	59,000	37,669
北陸					56,729	56,729	61,282	51,575
関西	70,559	71,052	65,507	57,922	60,233	63,279	90,951	36,802
広島・関西	77,330	75,286	70,931	66,856	69,032	73,274	85,000	57,658
海外(ホームステイ)			389,660			389,660	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
平均	70,961	71,136	65,714	57,989	57,293	62,653	-	-
最高額	83,959	90,951	83,845	75,060	83,025	-	90,951	-
最低額	53,788	53,101	49,909	36,802	32,394	-	-	32,394

※平均/最高金額は海外実施校及び特別支援学校除く
 ※小数点以下四捨五入

方面別費用平均(※海外除く)

・関西方面の費用は、東京駅までの距離に関係して、茨城県、栃木県、群馬県の3県が比較的に高額であるのに対して、千葉県、埼玉県は3県よりは、やや低い金額となっている。広島・関西方面も同様の結果となっている。

・千葉県は東北、会津・日光、信州、北陸と行き先が多方面に分布し、金額もまちまちである。

・関西方面の平均費用は63,279円となり、昨年の62,943円より336円の増となった。広島・関西方面も平均費用が73,274円となり、昨年の71,840円より1,434円増加している。

・今年度の旅行費用平均は、昨年(62,062円)より591円増の62,653円となった。一昨年、初めて6万円を超えたが、その傾向は続いている。

(12) 方面別体験活動費用平均(生徒一人当たり平均額) 円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額
東北					4,046	4,046	10,800
会津・日光					4,930	4,930	11,664
信州					5,927	5,927	15,220
北陸					5,084	5,084	13,200
関西	2,956	3,094	2,639	2,352	2,703	2,676	15,344
広島・関西	2,843	-	1,534	750	2,402	2,058	11,477
その他							
最高額	14,183	15,344	9,634	13,026	21,852	-	

※小数点以下四捨五入

方面別体験活動費用

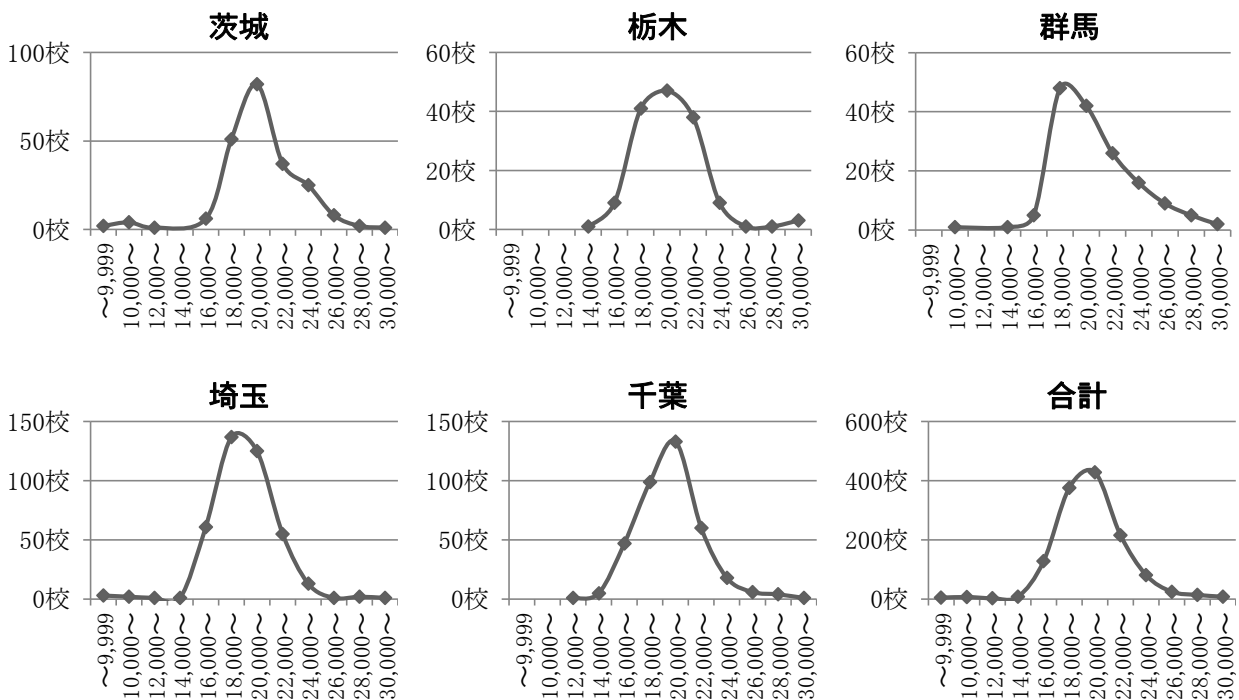
・体験活動費用は学校のねらいや目的、その内容、方法等が実に多様であるため、各学校によりかなり異なる。

・関西地区の体験活動における平均費用は2,676円と昨年(2,895円)と比べると若干下がっていて、ここ2、3年減少傾向にある。

(13) 県別宿泊費用(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	2			3		5
10,000～	4		1	2		7
12,000～	1			1	1	3
14,000～		1	1	1	5	8
16,000～	6	9	5	61	47	128
18,000～	51	41	48	137	99	376
20,000～	82	47	42	125	133	429
22,000～	37	38	26	55	60	216
24,000～	25	9	16	13	18	81
26,000～	8	1	9	1	6	25
28,000～	2	1	5	2	4	14
30,000～	1	3	2	1	1	8
未回答		3	6	10	3	22
合計	219	153	161	412	377	1,322

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く



(14) 方面別宿泊費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	未回答	合計
1～					5					5
10,000～					7					7
12,000～					3					3
14,000～	2	2	1		3					8
16,000～	2	16	21		86	2		1		128
18,000～	2	4	17	4	339	10				376
20,000～	5	2	9	2	399	12				429
22,000～	1		1		209	5				216
24,000～			1		78	2				81
26,000～					25					25
28,000～					14					14
30,000～					7					7
未回答					22				1	23
合計	12	24	50	6	1,197	31	0	1	1	1,322

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く

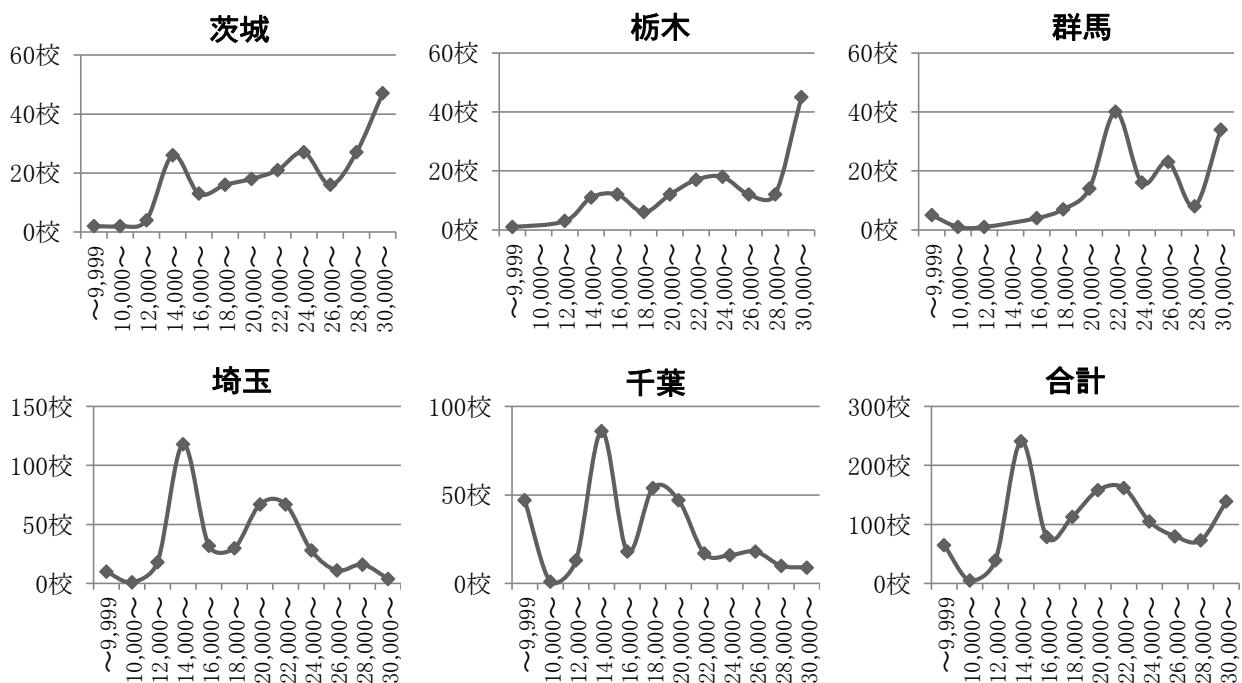
(15) 県別交通費(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	2	1	5	10	47	65
10,000～	2		1	1	1	5
12,000～	4	3	1	18	13	39
14,000～	26	11		118	86	241
16,000～	13	12	4	32	18	79
18,000～	16	6	7	30	54	113
20,000～	18	12	14	67	47	158
22,000～	21	17	40	67	17	162
24,000～	27	18	16	28	16	105
26,000～	16	12	23	11	18	80
28,000～	27	12	8	16	10	73
30,000～	47	45	34	4	9	139
未回答		4	8	10	41	63
合計	219	153	161	412	377	1,322

※一部貸切バス代含む

※海外修学旅行実施2校、特別支援学校除く



(16) 方面別交通費(生徒一人当たり平均額)

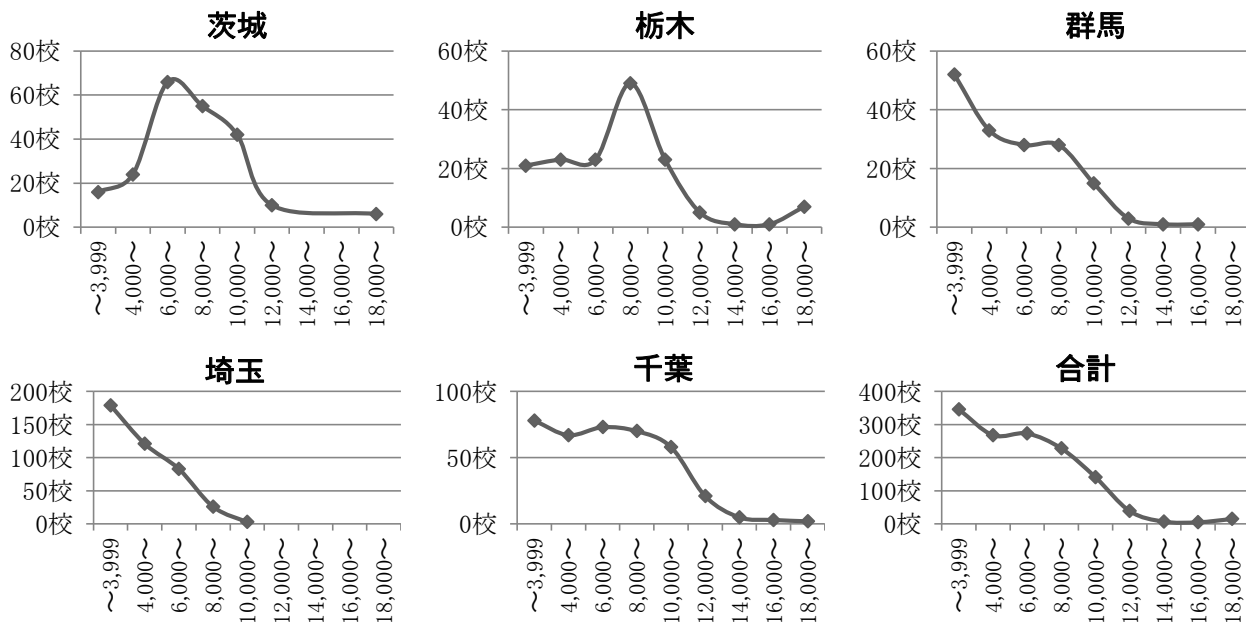
校

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	未回答	合計
1～		15	24		26			1		66
10,000～			1		4					5
12,000～	2		1		36					39
14,000～	3		1		237					241
16,000～	1				77	1				79
18,000～	4				109					113
20,000～				4	153	1				158
22,000～					162					162
24,000～					105					105
26,000～					77	3				80
28,000～					70	3				73
30,000～					116	23				139
未回答	2	9	23	2	26					62
合計	12	24	50	6	1,198	31	0	1	0	1,322

(17) 県別貸切バス代(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	16	21	52	179	78	346
4,000～	24	23	33	121	67	268
6,000～	66	23	28	83	73	273
8,000～	55	49	28	26	70	228
10,000～	42	23	15	3	58	141
12,000～	10	5	3		21	39
14,000～		1	1		5	7
16,000～		1	1		3	5
18,000～	6	7			2	15
未回答						0
合計	219	153	161	412	377	1,322

**県別バス代**

・昨年までのバス代の上昇は一段落した感がある。また、学校によってはクラス毎のバスの配車を見直し、一台のバスにできるだけ乗せるようにしてバスの台数を減らすなど努力したこともあり、経費としては下がっている。

(18) 方面別貸切バス代(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	未回答	合計
1～			2		331	13				346
4,000～			1	1	256	9		1		268
6,000～	8	1	3	3	251	7				273
8,000～	2	1	11	1	211	2				228
10,000～	2	12	22	1	104					141
12,000～		8	9		22					39
14,000～		1	1		5					7
16,000～		1			4					5
18,000～			1		5					6
未回答					9					9
合計	12	24	50	6	1,198	31	0	1	0	1,322

(19) 県別内訳平均額

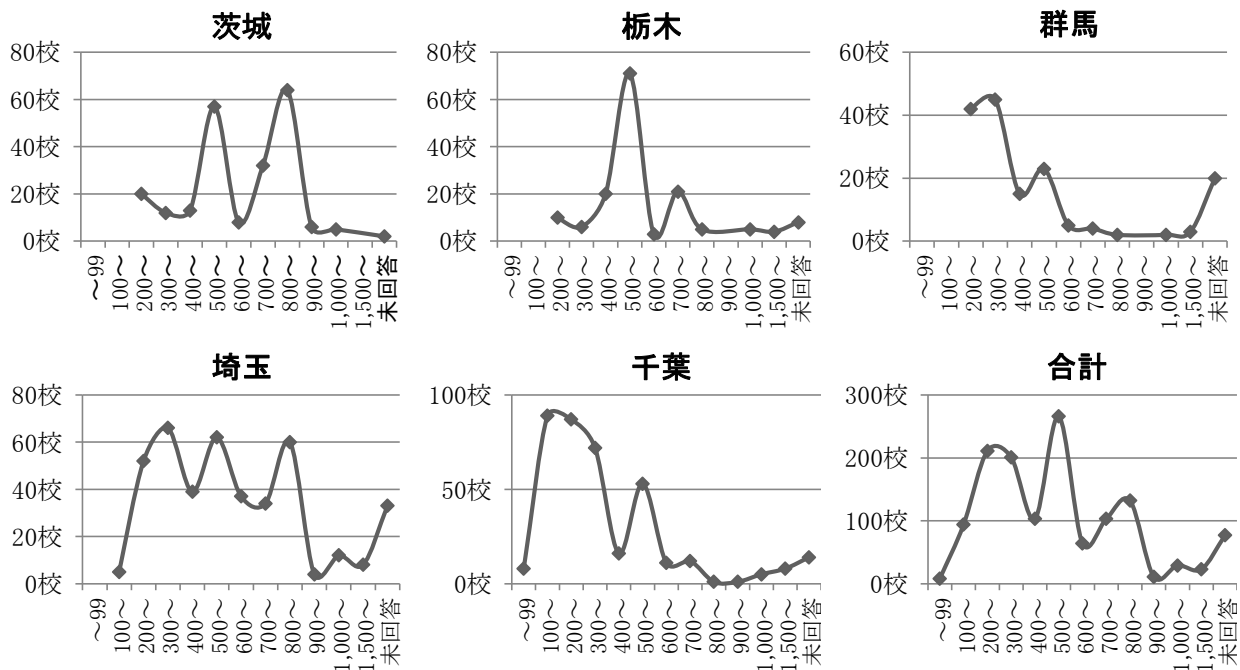
円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均
宿泊費	21,158	22,327	22,660	19,892	20,586	20,911
交通費	24,635	25,907	25,186	19,049	17,127	21,014
貸切バス代	8,170	9,104	6,506	4,674	7,393	6,793
保険料	631	647	435	623	424	548

(20) 県別保険料(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～					8	8
100～				5	89	94
200～	20	10	42	52	87	211
300～	12	6	45	66	72	201
400～	13	20	15	39	16	103
500～	57	71	23	62	53	266
600～	8	3	5	37	11	64
700～	32	21	4	34	12	103
800～	64	5	2	60	1	132
900～	6			4	1	11
1,000～	5	5	2	12	5	29
1,500～		4	3	8	8	23
未回答	2	8	20	33	14	77
合計	219	153	161	412	377	1,322

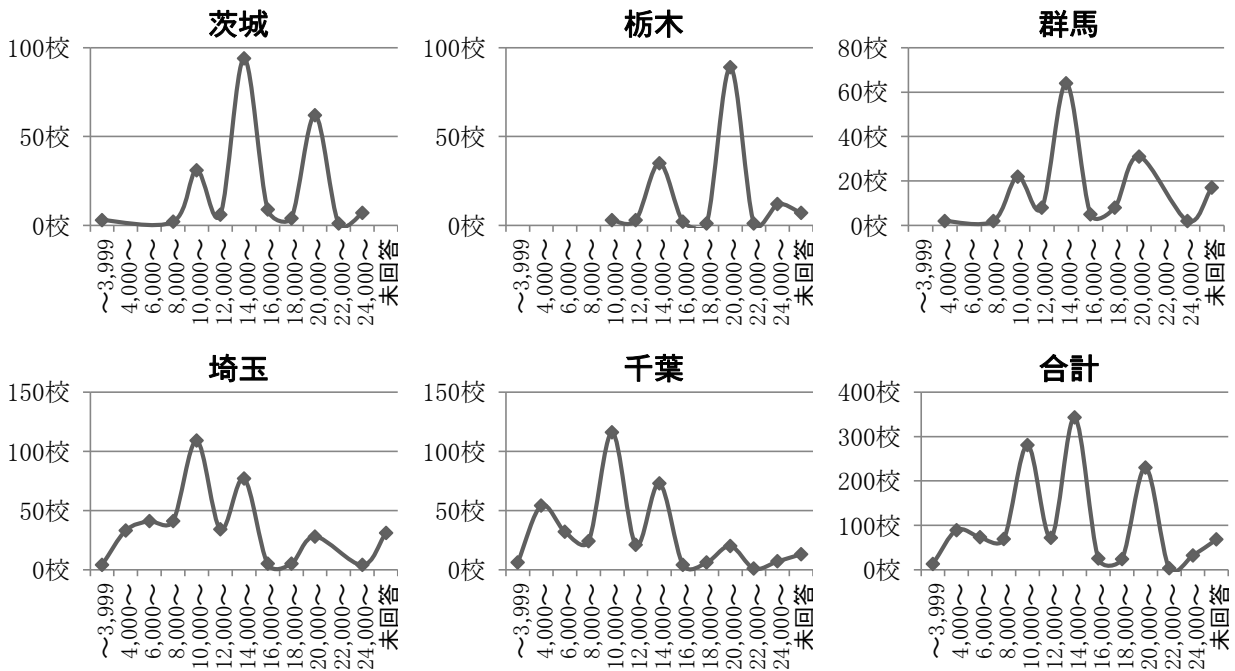


(21) 県別小遣い(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	3			4	6	13
4,000～			2	33	54	89
6,000～				41	32	73
8,000～	2		2	41	24	69
10,000～	31	3	22	109	116	281
12,000～	6	3	8	34	21	72
14,000～	94	35	64	77	73	343
16,000～	9	2	5	5	4	25
18,000～	4	1	8	5	6	24
20,000～	62	89	31	28	20	230
22,000～	1	1			1	3
24,000～	7	12	2	4	7	32
未回答		7	17	31	13	68
合計	219	153	161	412	377	1,322

(22) 県別小遣い平均(生徒一人当たり) 円

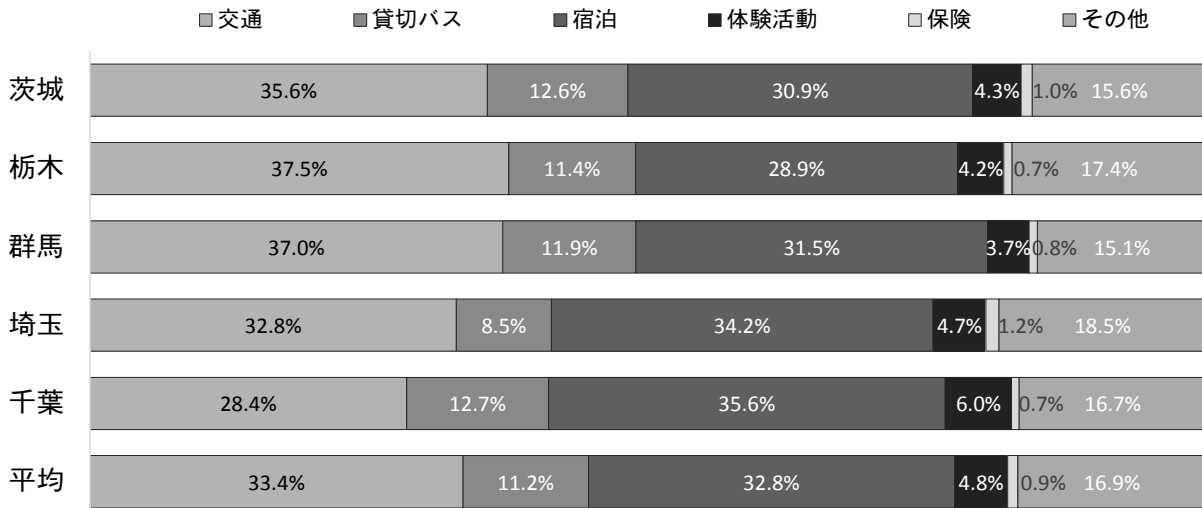
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均
30年度	15,901	18,825	15,207	11,200	10,756	13,228
29年度	16,037	19,288	16,377	11,018	10,654	13,409



(23) 小遣いに含まれるもの 校

	合計	割合
食事代	822	74.5%
土産代	919	83.3%
見学料	697	63.2%
体験費	240	21.8%
交通費	393	35.6%
その他	85	7.7%

県別費用内訳

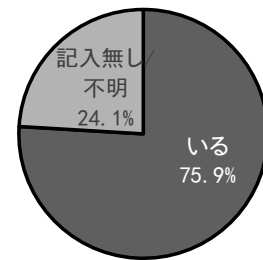


(24) 不参加生徒の有無

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
いる	176	110	118	295	305	1,004	75.9%
記入無し/不明	43	43	43	117	72	318	24.1%

※記入無し/不明 には平成30年7月以降実施の学校も含む



(25) 理由別不参加の延校数と生徒数

(校・人)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
合計	176	110	118	295	305	1,004
生徒数	594	451	413	1,438	1,275	4,171
経済的理由	22	17	20	37	19	115
生徒数	27	28	37	68	32	192
不登校	163	95	101	412	286	1,057
生徒数	437	356	278	1,093	1,033	3,197
疾病	39	26	20	78	53	216
生徒数	60	67	24	125	82	358
部活動等	2	6	6	17	10	41
生徒数	2	8	11	31	21	73
その他	43	21	33	71	73	241
生徒数	67	26	51	113	105	362

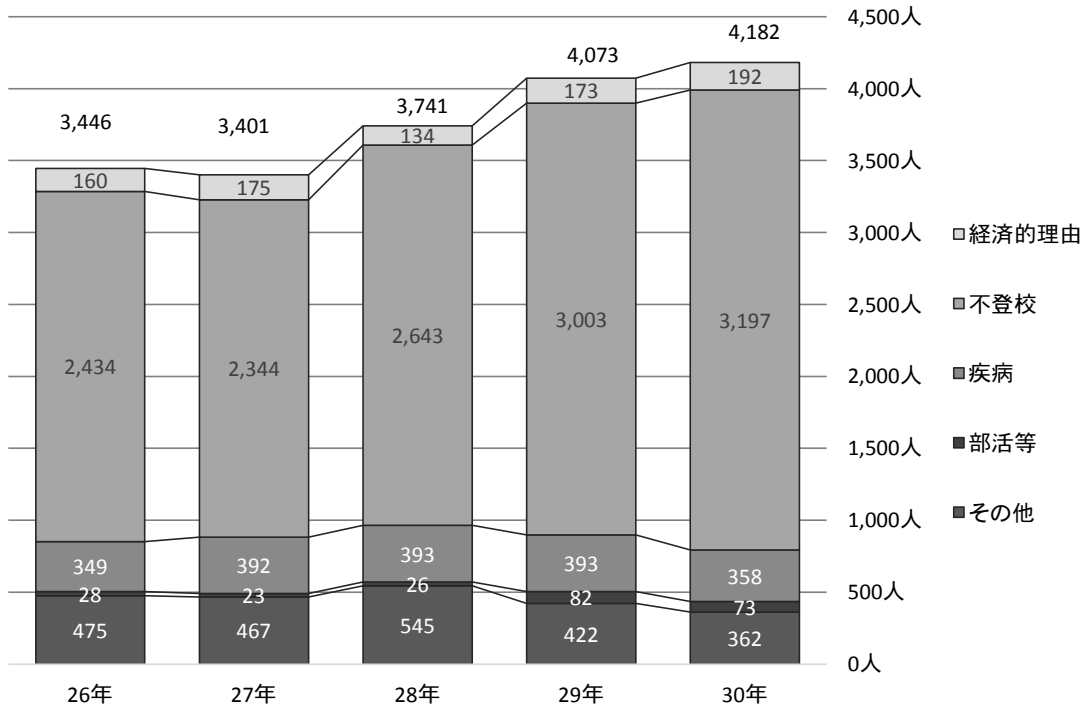
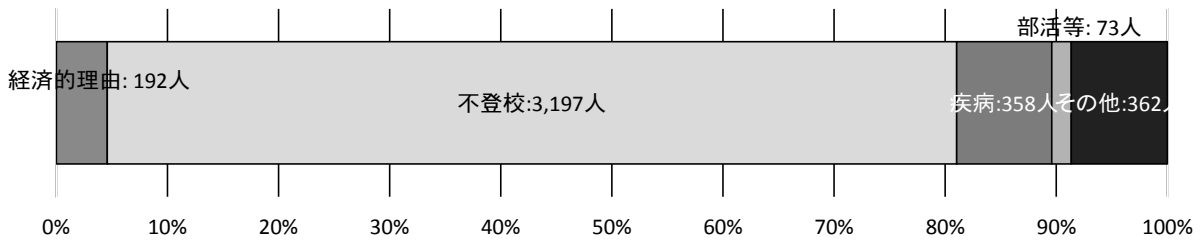
※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

理由別不参加生徒数

・不参加生徒のいる学校は、**昨年が990校で、今年は1,004校とはじめて1,000校を超えた。**

・不参加生徒の総数は4,171人、昨年度の4,070人と比べ、101人増加している。

・**経済的理由による不参加生徒数は192名で、昨年度より19名増加している。また、不登校生徒も194名増加している。不登校やその他に分類されている生徒の中にも経済的理由に起因して不登校になっている生徒や、それ以外の理由等でその他に分類されている生徒がいることを考慮すると、192名よりも多いと思われる。**



2 実施方面の検討・変更について

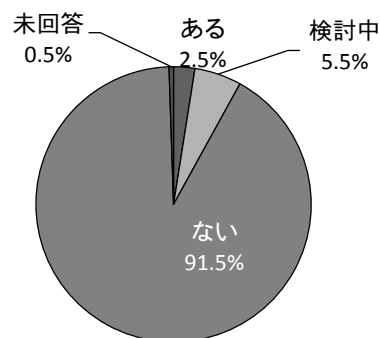
(1)-1 方面変更の予定について

	校						
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア ある	1	1	2	4	25	33	2.5%
イ 検討中	6	2	7	12	46	73	5.5%
ウ ない	212	148	152	392	305	1,209	91.3%
未回答		2		4	1	7	0.5%

校	
29年度	合計
ある	60
検討中	56
ない	1,207

(1)-2 方面変更予定の時期について

	合計
2019年	22
2020年	10
2021年	1



(2)-1 方面変更のきっかけについて(複数回答)

	校						
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア 教育的観点	6	2	7	13	56	84	79.2%
イ 経済的事情	3		3	2	20	28	26.4%
ウ 保護者の要望			1		6	7	6.6%
エ 誘致説明会				1	7	8	7.5%
オ 研究発表会				1	1	2	1.9%
カ 旅行会社から	1		1	1	6	9	8.5%
キ 自治体からの提案					5	5	4.7%
ク 現地研修会				2		2	1.9%
ケ 他校からの情報	1	1	1	3	20	26	24.5%
コ その他	1			1	4	6	5.7%

その他

交通事情

学校の統廃合等

肢体不自由の生徒がいるため

中学1年時にその学年のコースをアンケートにて決定するため

関西の宿が取りにくい

(2)-3 変更予定の方面について(複数回答)

変更希望方面	合計	今年度実施方面						
		東北	会津 日光	関東	信州	北陸	関西	広島 関西
北海道	4						4	
東北	18	2	1		4	1	10	
会津・日光	8	1	1		2		4	
関東, 東海	3				1		2	
信州	11	1			4	2	4	
北陸	23				13		10	
関西	24				5		12	7
広島・関西	28				2		25	1
広島	5						4	1
海外その他	6					2	4	

方面変更の予定並びにきっかけについて

・方面変更の予定については、106校の学校が「ある」又は「検討中」と答えている。昨年は116校が回答していたが、その内の数校は、確実に方面変更をしている。少しずつではあるが方面について検討する学校も増えている。

・方面変更のきっかけについては、「教育的観点」が一番多く、そして、「経済的事情」、「他校からの情報」が続いている。「教育的な観点」を重視しながら「経済的事情」にも配慮していることが推察される。また、学校としては「他校からの情報」を大切にしていることが良くわかる。

(3)-1 方面変更しない理由について(複数回答) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア 教育的理由	101	89	197	187	87	661	54.7%
イ 経済的理由	144	57	169	143	60	573	47.4%
ウ 伝統	23	7	32	36	5	103	8.5%
エ 現地とのつながり	79	27	63	43	23	235	19.4%
オ 情報不足	3		4	3		10	0.8%
カ 保護者からの要望	1	1	2	4	1	9	0.7%
キ その他	2	12	10	8	8	40	3.3%

方面変更しない理由について

- ・変更しない理由については、ほぼ半数の学校が「教育的理由」と「経済的理由」をあげている。
「現地とのつながり」も235校あり、修学旅行での深い繋がりや学びを感じる

その他

学年の意向
平和教育という観点から市の方針で
市内一斉申し込みのため
学校の統合
学校規模
3カ年計画
周知したコースのため

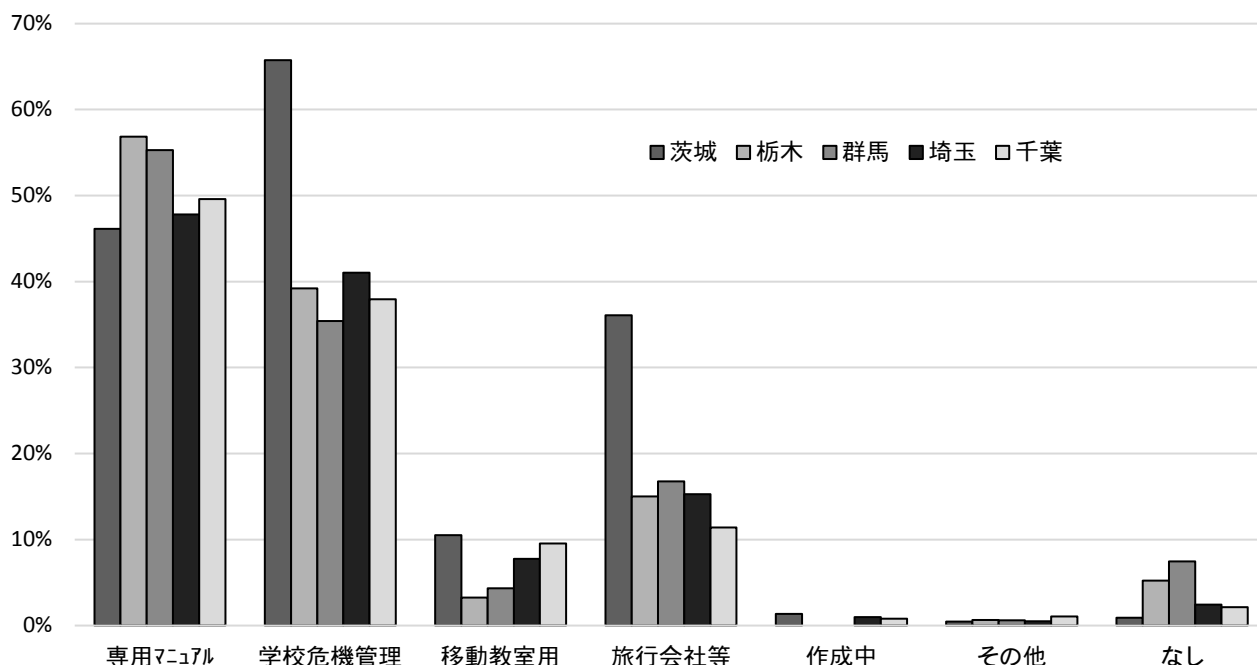
日本の古都の文化に触れることができるから
京都・奈良を見学させたい
見学地の意義
高校の修学旅行における京都・奈良が減っていることから
一度は京都奈良を体験させたいから
指導要領の変更があっても京都奈良での学習価値は変わらないため

変更の必要性を感じていない
本年度変更したため
現状のままで特に問題はないため
民泊形式の実績もありいつでも変更を検討できる
日程や宿泊場所の確保が難しい
復興支援費用

3 危機管理対策について

(1) 危機管理マニュアルについて(複数回答)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
ア 修学旅行専用マニュアル	101	87	89	197	187	661	50.0%
イ 学校危機管理マニュアル	144	60	57	169	143	573	43.3%
ウ 移動教室用マニュアル	23	5	7	32	36	103	7.8%
エ 旅行会社等のマニュアル	79	23	27	63	43	235	17.8%
オ 現在作成中	3			4	3	10	0.8%
カ その他	1	1	1	2	4	9	0.7%
キ 作成していない	2	8	12	10	8	40	3.0%

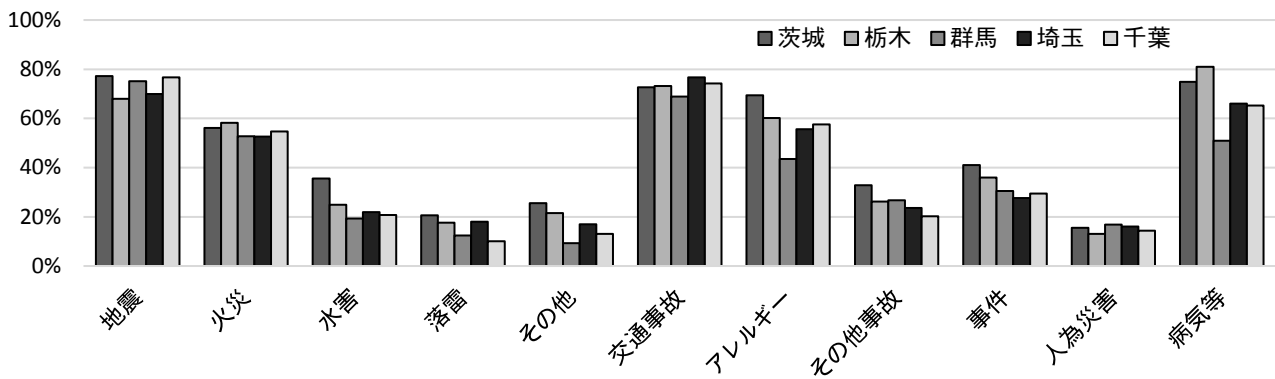
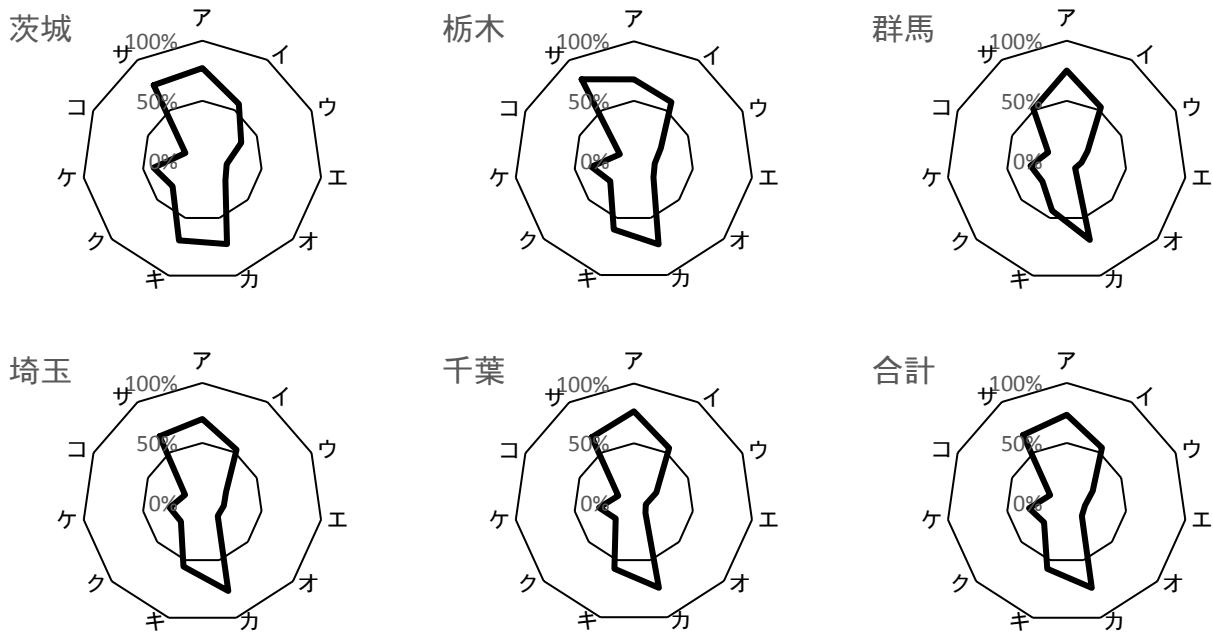


危機管理マニュアルについて

・専用マニュアルを持っている学校が半数、危機管理マニュアル、移動教室用マニュアル、その他のマニュアルを準用している学校が半数以上にのぼっており、ほぼ全ての学校がマニュアルを活用して安全対策に取り組んでいることがわかる。専用マニュアルがないものの、現在作成中の学校も10校ある。

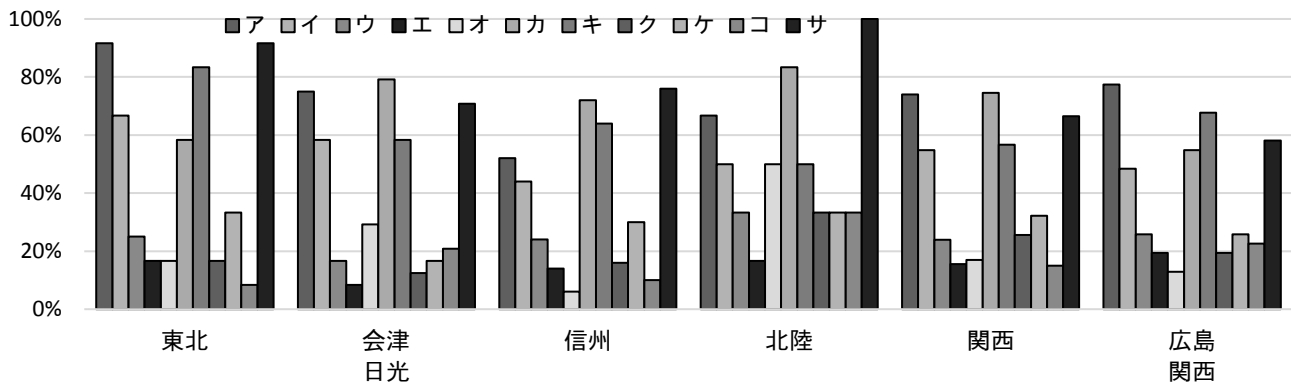
(2) 想定される災害について(複数回答)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
ア 地震・津波	169	104	121	288	289	971	73.4%
イ 火災	123	89	85	217	206	720	54.5%
ウ 豪雨・水害	78	38	31	90	78	315	23.8%
エ 落雷	45	27	20	74	38	204	15.4%
オ その他自然災害	56	33	15	70	49	223	16.9%
カ 交通事故	159	112	111	316	280	978	74.0%
キ アレルギー	152	92	70	229	217	760	57.5%
ク その他事故	72	40	43	97	76	328	24.8%
ケ 事件	90	55	49	114	111	419	31.7%
コ 人為的災害	34	20	27	66	54	201	15.2%
サ 病気・感染症	164	124	82	272	246	888	67.2%



(2) 実施方面別想定される災害について(複数回答) 校

	東北	会津 日光	信州	北陸	関西	広島 関西
ア 地震・津波	11	18	26	4	887	24
イ 火災	8	14	22	3	657	15
ウ 豪雨・水害	3	4	12	2	286	8
エ 落雷	2	2	7	1	186	6
オ その他自然災害	2	7	3	3	203	4
カ 交通事故	7	19	36	5	893	17
キ アレルギー	10	14	32	3	679	21
ク その他事故	2	3	8	2	307	6
ケ 事件	4	4	15	2	386	8
コ 人為的災害	1	5	5	2	180	7
サ 病気・感染症	11	17	38	6	797	18



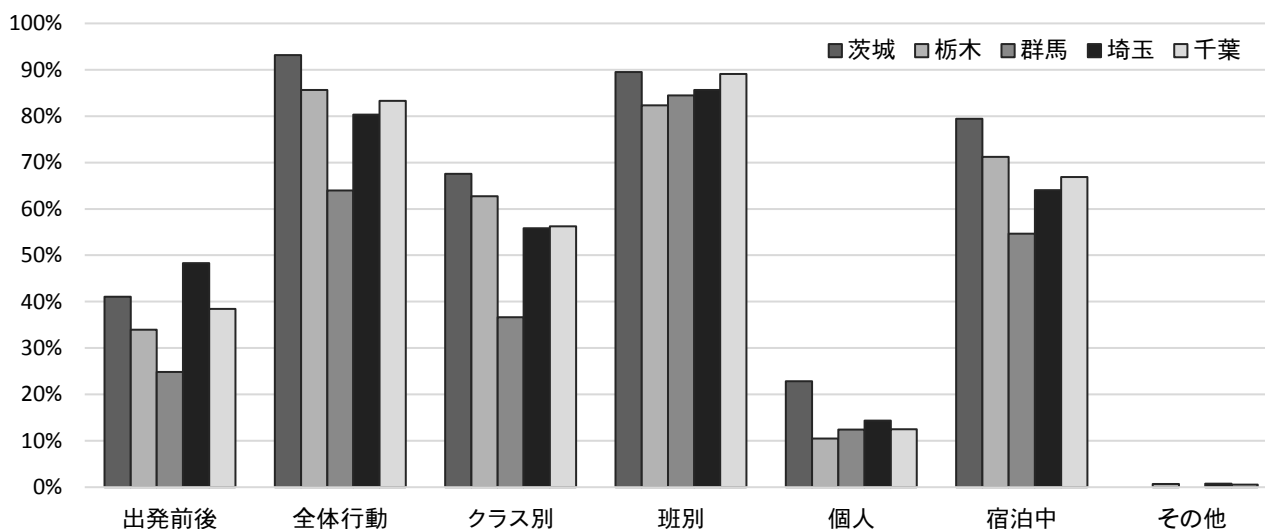
想定される災害について

・想定される災害で、一番多いのは「交通事故」、二番目は「地震・津波」、三番目が「病気・感染症」となっている。その後は、「アレルギー事故」、「火災」と続く。何れの項目も、何時でも、何処でも、起きる可能性がある。最近では、「豪雨・水害」も大変狭い範囲で、局地的に発生する可能性がある。生徒の命を守るためには、集団での指導と共に、一人一人の防災意識を高める教育は欠かせないと思われる。

(2) 想定されている場面について(複数回答) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア 出発前・解散後	90	52	40	199	145	526	39.8%
イ 全体行動中	204	131	103	331	314	1,083	81.9%
ウ クラス別行動中	148	96	59	230	212	745	56.4%
エ 班別行動中	196	126	136	353	336	1,147	86.8%
オ 個人行動中	50	16	20	59	47	192	14.5%
カ 宿泊中	174	109	88	264	252	887	67.1%
キ その他		1		3	2	6	0.5%

その他：全行程

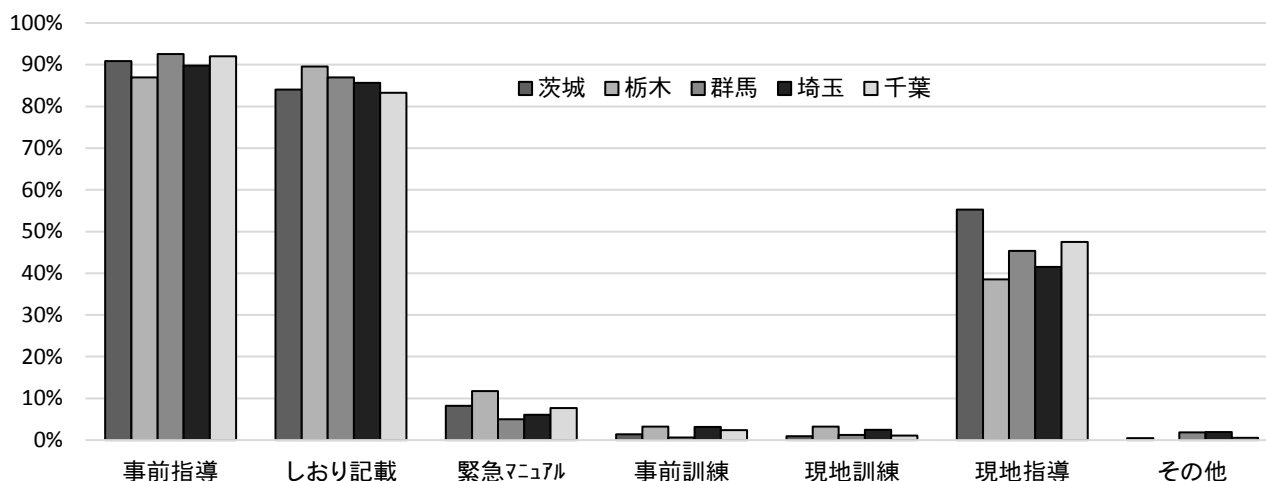


想定されている場面について

・想定されている場面は、「全体行動中」と「班別行動中」が圧倒的に多くなっている。災害が発生したときなどの、緊急避難場所、集合場所の指定などは不可欠なものである。

(4) 生徒への指導徹底について(複数回答) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア 事前指導	199	133	149	370	347	1,198	90.6%
イ しおり記載	184	137	140	353	314	1,128	85.3%
ウ 緊急マニュアル配布	18	18	8	25	29	98	7.4%
エ 事前避難訓練	3	5	1	13	9	31	2.3%
オ 現地避難訓練	2	5	2	10	4	23	1.7%
カ 現地指導	121	59	73	171	179	603	45.6%
キ その他	1		3	8	2	14	1.1%

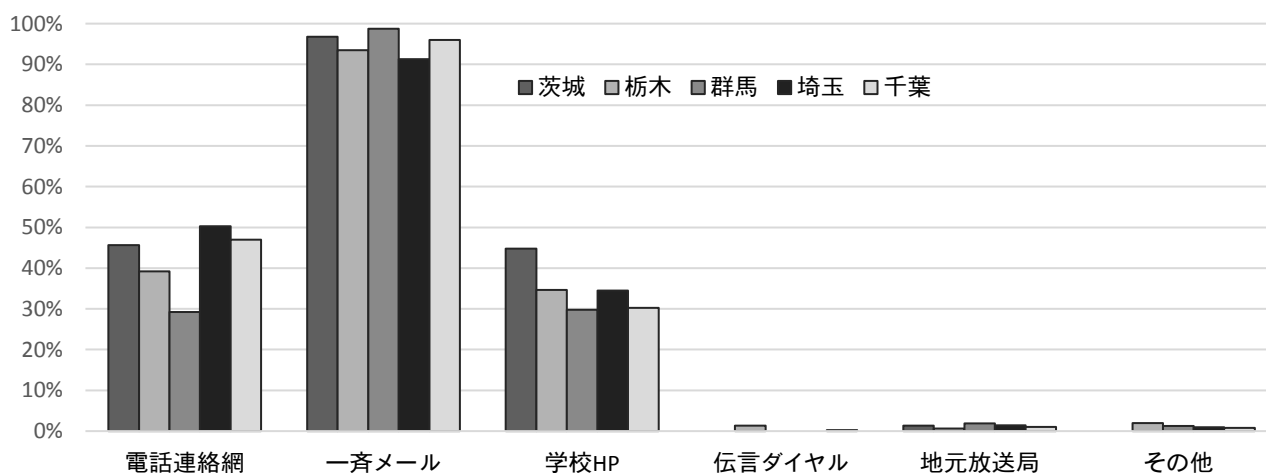


生徒への指導徹底について

・指導の機会としては、「事前指導」と「しおり記載」が最も多くなっている。改めて、当然のことながら、普段からの防災教育の重要性は言うまでもないことである。

(4) 保護者への連絡について(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア 電話連絡網	100	60	47	207	177	591	44.7%
イ 一斉メール	212	143	159	376	362	1,252	94.7%
ウ 学校HP等	98	53	48	142	114	455	34.4%
エ 伝言ダイヤル		2			1	3	0.2%
オ 地元放送局等	3	1	3	6	4	17	1.3%
カ その他		3	2	4	3	12	0.9%



保護者への連絡について

・殆どの学校は「一斉メール」を利用していることがわかる。それ以外では、「電話連絡網」、「学校HP」も利用されているが、併用している学校も多いと思われる。つながる可能性が高いという点では、「伝言ダイヤル」も一考に値すると思うが、利用率は意外に低い。

Ⅲ 調査結果から

1 実施方面の検討・変更等について

- ・方面変更の予定については、昨年と大きくは変化をしていない。しかしながら、北陸方面に各県とも関心を持っていること、2020年度には11校が訪れることなど、少しずつではあるが方面について考える学校も出てきており、変化が窺える。先生方や学校が、どの程度情報を持っているかによっても大きく左右される可能性がある。
- ・方面変更のきっかけについては、何と云っても「教育的観点」が一番多く、そして、「経済的事情」、「他校からの情報」が続いている。「教育的な観点」を重視しながら「経済的事情」にも配慮している学校の姿が浮かび上がってくる。また、学校にとっては「他校からの情報」を大切にしていることが良くわかる。生徒にとってより良い修学旅行にしていくために、学校が信頼できる情報を、適宜、入手できるかは重要な課題である。

2 危機管理対策について

(1) 危機管理マニュアルについて

- ・専用マニュアルを持っている学校が半数、危機管理マニュアル、移動教室用マニュアル、その他のマニュアルを準用している学校が半数以上にのぼっており、ほぼ全ての学校がマニュアルを活用して安全対策に取り組んでいることがわかる。近年、これまでの想定を超えた自然災害や事故等が発生していることを考慮すると、学校でのマニュアルの整備や万が一における体制づくり等は、修学旅行の大きな前提になると思われる。

(2) 想定される災害・場面について

- ・想定される災害で、一番多いのは「交通事故」、二番目は「地震・津波」、三番目が「病気・感染症」となっている。その後は、「アレルギー事故」、「火災」と続く。何れの項目も、何時でも、何処でも、起きる可能性がある。最近では、「豪雨・水害」も大変狭い範囲で、局地的に発生する可能性がある。生徒の命を守るためには、学校は様々な場면을想定し、その対応策を準備するとともに、集団での指導と一人一人の防災意識を高める教育は欠かせないと思われる。

(3) 修学旅行中の安全対策指導・徹底の方法等について

- ・改めて、普段からの防災教育の重要性は感じるところである。指導の機会としては、「事前指導」と「しおり記載」が最も多くなっている。「現地指導」も半数近くの学校が行っているが、目的地や観光地の状況、環境が変化している場合などは特に重要である。

(4) 保護者への連絡について

- ・殆どの学校は「一斉メール」を利用していることがわかる。それ以外では、「電話連絡網」、「学校HP」も利用されているが、併用している学校も多いと思われる。つながる可能性が高いという点では、「伝言ダイヤル」も利用価値は高いのではないかと。いずれにしても複数の方法を

考えておくことは不可欠と思われる。

IV まとめと今後の課題

<まとめ>

- ・本年度も、関東地区公立中学校修学旅行委員会では「学びの集大成を図る修学旅行 ～感性をはぐくむ修学旅行～」をテーマとし、調査研究を実施してきた。

今年度は、特に、

- (1) 修学旅行中の危機管理マニュアルについて
- (2) 修学旅行に想定している災害や場面等について
- (3) 修学旅行中の安全対策指導・徹底の方法等について
- (4) 災害発生時の保護者等への連絡について

上記の4つを柱に調査研究を進めてきた。

言うまでもなく、現行学習指導要領における修学旅行のねらいは、豊かな自然や文化に触れる体験を通して、生涯の楽しい思い出を作ることが出来ること。学校における学習活動を充実・発展させること、そして、非日常の旅と言う体験を通して、人間としての生き方についての自覚を深めることであることは周知の通りである。

そのために、学びの集大成として、修学旅行を、感性を育てる重要な教育活動の場として捉えていきたい。

今回、潮来市立日の出中学校の河嶋賢一校長先生と川島満義先生の発表は「地域との連携を深め、生徒が主体的に取り組む修学旅行 ～日本の歴史と地域の繋がりを通して郷土を愛する心を育む～」と題し、郷土愛を育むことをねらいとした実践例の発表である。地元にある潮音寺の正式名称は「奈良薬師寺東関東別院 水雲山 潮音寺」といい奈良県にある薬師寺の伝統を受け継いでいる。日本の歴史の中心地であった奈良県と地域とのつながりを通して、伝統文化と郷土理解を深める取組である。

また、日立市立駒王中学校の折笠修平校長先生と菊池範子先生の発表は「身近な地域や他地域の伝統・文化を理解し、尊重する生徒の育成 ～現地ガイドとのふれあいや地域との繋がり調べをとおして～」と題し、「地域とともにある学校づくり」、「自立した人間として他者とよりよく協働することが出来る資質・能力を育む」、「キャリア教育」という3つの視点から取り組んだ実践発表である。

これらの2つの実践例と調査研究されたアンケートは、今後の各学校の「修学旅行」の方向性を考える参考にしていただき、一層充実した修学旅行が展開されるようになればと考えている。

<課題>

- (1) 修学旅行における「安全性の確保」、「教育性の充実」、「経済性の適正化」は不可欠な要素である。特に、「安全性の確保」は絶対条件と言っても過言ではない。

近年、これまでの想定を超えた自然災害や事故等が発生し、少なからず修学旅行の実施においても影響を落としている。学校でのマニュアルの整備や万が一における体制づくり等は、今後、益々重要となってくるが、学校だけでなく教育委員会や関係機関との情報連携や行動連携も不可欠になってくると思われる。

- (2) 関修委の県別旅行費用の平均が、今年も6万円を超え、経費の高騰傾向は続いている。このような状況にどう対応して、質の高い修学旅行を実現していくか、学校としては頭の痛い問題である。特に、少子化等で生徒数が減っている小規模校などでは、その影響は更に深刻である。教育旅行としての社会的な理解と支援を得られるような公的配慮・優遇措置等について求めていくことも必要ではないか。

- (3) 関修委の訪問地の9割が京都・奈良となっているが、近年、外国からの観光旅行者が急増し、見学地や公共交通機関、道路等の混雑が深刻になっている。関東地区では、これまでの経緯もあり、方面変更には慎重な学校も多く、この傾向は続くと思われる。

一方で、他の選択肢も修学旅行の目的を達成する上で、魅力的なところは多い。校長先生の判断材料を増やすという意味でも、情報発信・研修会等を適切・適確に実施していきたい。

- (4) 修学旅行における体験学習の意義は、以前と比べて更に大きくなってきている。また、その範囲も、従来からある伝統文化に関する体験をはじめ、自然体験、スポーツ体験、職業体験等、その広がりには更に拡大する傾向にある。

- (5) 何らかの理由で修学旅行に参加できない生徒の数は、関修委5県で4,171人、学校数では1,004校に上る。その主な理由のトップは、不登校3,197人、経済的な理由は192人いる。

戦後、学校教育が一貫して目指してきた「人格の完成」と新学習指導要領でも継承されている基本理念である、「生きる力を育む」という目標は、学校という場だけでなく、また、教師という人材だけでなく、広く多くの関わりの中でこそ達成されるものである。そうした意味でも、修学旅行は最も重要な学校行事の一つであり、修学旅行のその行事(当日)だけでなく、事前学習、そして事後学習から始まる「学び」も含めて、「学びの集大成を図る大切なプロセス」として、重要な教育活動である。